

# 日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.26 【外貨換算会計】

収録日：平成 25 年 10 月 17 日

## 【出題実績】

日商出題傾向：122 回（為替予約）、129 回（会計学）

全経出題傾向：商業簿記 155,161,162,164,167 回（2013 年 12 月くらいに過去問ゼミで）

	検定簿記講義(商簿)	サク	スッキリ	教科書
ページ数	4	39	43	
期中処理と期末処理	○	◎	◎	
外貨建て有価証券	×	◎	◎	
為替予約	×	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い  
（「弱い」は「ない」を含みます）

## 外貨建て取引とは？

外国企業との取引ではない

日本企業が相手でも、外貨で取引すれば外貨建て取引

変動相場だから換算の必要ある。固定相場だったら取引時のレートで換算して終わり  
(論点ない)

### <例題 1>

商品 100 \$ を掛け（翌月末回収）で販売した。

（取引時為替レート＜スポットレートや直物レートといいます＞ 1 \$ 100 円）

弥生会計は \$ に対応していません（残念ながら）

という事は日本円にしなければ・・・

**換算の意味は「決済日に最も近い日のレートで金融債権・債務を仮計算する」と覚えてこう**

売掛金	10,000 円	/	売上	10,000
決算日に最も近い日は今日			相手科目として同じ金額	

### <例題 2>

上記売掛金を 100 \$ を回収した。

回収日のレートは 105 円だった

\$ で回収したらどうしますか？そのまま持っていてもいいのですが、仕入先などへ払うのなら銀行で両替しますよね。

という事は 100 \$ を銀行にもっていったら 10,500 円になった訳です（得しました）  
輸出企業が円安になったら、もうかる訳がわかりました・・・

仕訳は

現金	10,500 円	/	売掛金	10,000 円
			為替差益	500 円

逆のパターンが為替差損になります

**続いて決算時の処理です**

取引	決算	決済
100 円	102 円	105 円

さきほどの取引に、決算がはさまったら、どうしましょう？

換算の意味は「決済日に最も近い日のレートで金融債権・債務を仮計算する」と覚えてこう

思い出してください。

そうですね。決算日は取引日よりも決済日に近いですね。

<決算日の仕訳>

売掛金 200 / 為替差益 200

<決済日の仕訳>

現金 10,500 / 売掛金 10,200  
為替差益 300

イメージできたところで換算ルールを見てみましょう

貨幣項目	資産	外国通貨、外貨預金、売上債権、未収金 貸付金等	C R (CurrentRate)
	負債	仕入債務、未払金、社債、借入金等	C R
非貨幣項目	資産	棚卸資産、前払金、固定資産	H R (HistoricalRate)
	負債	前受金など	H R

貨幣項目＝あとからお金が入ってくるもの、または出ていくもの

棚卸資産は、次は売上原価になります（費用性＝非貨幣性資産）

固定資産は、次は減価償却費になります（費用性＝非貨幣性資産）

未払金は後からお金が出ていきますが、前払金は既に支払済で円で確定しています

ここで、P Lの事も少し意識しましょう

固定資産はHRで換算です。だったら減価償却費もHRでしないと残が残ってしまいますね

売上原価は、期首と当期仕入と期末が混じっているのです、とにかく問題の指示に従ってください

<参考>

1,000 \$ 商品の購入を約して 100 \$ 前払いした（直物レート 100 円）

前払金 10,000 / 現金 10,000

商品を掛けて購入した（直物レート 90 円）

仕入 91,000 / 買掛金 81,000 (900 \$ × 90)  
前払金 10,000

金銭債務の換算が最優先です



<p>その他有価証券</p>	<p>基本的には売買目的有価証券と同じ（時価評価） （但し科目は、その他有価証券評価差額金）</p> <p>&lt;例外&gt;債権でその他有価証券に分類しているもの 原則は、売買目的有価証券と同じ考え方（時価評価）</p> <p>例外で、上記満期保有目的債権の換算差額を為替差損益と整合性とするために</p> <p>①まずは、取得原価（金銭債権として）で為替差損益を計算</p> <p>②原則計算との差額を「その他有価証券評価差額金」で処理</p> <p>容認処理のみみておきましょう</p> <p>取得原価 200 \$（HR100 円、CR120 円）（期末時価 220 \$）</p> <p>①取得原価 200 \$ × 20（レート差） = 4,000 円・・・為替差損益</p> <p>②差額の 6,400 円から 4,000 円を引いて 2,400 円が有価証券評価差額金</p>
<p>関係会社株式</p>	<p>事業投資なので原則は換算しません</p>
<p>減損処理</p>	<p>その他有価証券や関係会社株式は減損規定があります 注意事項は \$ などの外貨ベースでの減損という事</p>

**収録後に記載しました**

金融資産・負債の取得原価のレート差は為替差損益  
（売掛金も満期保有目的債権も同じ）

という事は、満期保有目的債権を償却原価法で処理している場合も、償却原価（円換算後）と期末の原価×レートの差は為替差損益

その他有価証券に分類している債券は償却原価適用しないので、レート差は為替差損益  
時価との差額の残りを「その他有価証券評価差額金」という容認処理がある

**要は、原価と決算相場の差は為替差損益と覚えておけば対応可能**

## 続いて為替予約

変動相場制だから為替変動リスクがある。

だったら、無理やり固定相場にしちゃおう・・・という話です

試験で一番問われる振当処理をみてみましょう

問われるのは、予約日と決算日です。そこだけ見ていきましょう

<取引日 12/1 @100

1,000\$ で掛売りした。6月末決済

売掛金 100,000 / 売上高 100,000

<予約日 2/1 直物レート 98円 6/末日先物レート 95円

円高懸念が出てきたので、6/末 95円 で決済する為替予約を行った

今日までの差損  $2円 \times 1,000\$ = 2,000円$  (直々差額)

為替差損 2,000 / 売掛金 2,000

決済日までの差損  $3円 \times 1,000\$ = 3,000円$  (直先差額)

前払費用 3,000 / 売掛金 3,000

<決算日

決済日までの差損を当期分と翌期分にあんぶんする

当期分 (2,3月分) 2/5 1,200円

翌期分 (4,5,6月分) 3/5 1,800円

為替差損 1,200 / 前払費用 1,200

<決済日につき、予約レートで決済

現金 95,000 / 売掛金 95,000

為替差損 1,800 / 前払費用 1,800

<ダウンロード講座>

129回会計学の第1問(有価証券)を解説します(10~15分で解いてください)

為替予約は第134回の時点では122回以来出ていません

122回の商業簿記の資料7を実施して下さい(3~5分)